



JACP

Japanese Association for Community Pharmacy

JACP 7年間のあゆみ

2013年11月22日～2021年6月30日



一般社団法人 日本コミュニティファーマシー協会

地域社会の拠点となり人々にとっての拠り所となる

いきつけ薬局を目指して!



ごあいさつ

2013年に設立した日本コミュニティファーマシー協会(JACP)ですが、7年目を迎えます。前回5年の歩みを作成しましたが、その後の2年間にコロナという大きな課題が立ち塞がりました。

会員のみなさまとの接点であるCP研究会・CP学術講演会やコミュニティファーマシーフォーラムが対面できなくなり、ドイツへの薬学視察旅行やFIP国際学会(国際学会もオンラインになりました)にも行けなくなりました。

JACPとしては大きく、ニューノーマル(新しい生活様式)へ切り替えをした2年間であったと思います。

世の中にニーズがあればそのニーズを満たすような仕組みができる。早めにオンライン研修へと切り替え、会員のみなさまにはサブスクリプションでCP研究会に参加できるという仕組みを整えました。ネット決済も取り入れました。

ニューノーマルへと舵を切り替えましたが、理念そのものは全く変わっていません。ここに掲載しているように、地域社会の拠点となり人々にとっての拠り所となるいきつけ薬局の創設を目指しています。このいきつけ薬局のコンピテンシーモデルは設立当初

に策定したものです。

このような薬局を作る手法として、Think globally Act locallyを基本とし、世界の薬局や情勢を見て、日本の薬局を考える。そのためのCP研究会やコミュニティファーマシーフォーラムを行なっています。

倫理審査委員会を作り、会員の調査研究も進めています。アウトカムを出すことにも挑戦しています。その間、日本の薬局も変革が進んでいます。健康サポート薬局や地域連携薬局など、新たな形が出来てきています。

今からはDX(デジタルに強い)薬剤師も必要になることでしょう。世の中の変革についていくながら、基本は変わらずの姿勢で協会の運営を行なっていきたくと考えています。みなさまのご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

日本コミュニティファーマシー協会代表理事
吉岡 ゆうこ



“いきつけ薬局”のコンピテンシーモデル

- ① **通りに面したショーウィンドウ**
薬局から街の人々へ情報を発信するための重要なスペース。目を惹きつけるディスプレイで、季節や気候に応じた健康や薬の情報を伝えます。
- ② **夜間・休日対応窓口**
夜間や休日は人の頭が通らない大きさの窓口で対応します。
- ③ **体組成もしくは体重測定コーナー**
気軽に体組成や体重を測ってもらいます。
- ④ **各種測定コーナー**
血圧、骨密度、肺機能からお肌のキメや水分量チェックなど、体と健康のチェックのためにいつでも気軽に立ち寄ってもらうコーナーです。
- ⑤ **OTC医薬品(市販薬)の対面相談販売**
薬を使用する人の顔や様子を見ながら、症状や状況を直接聞き、薬剤師が適切なセルフメディケーションを提案します。
- ⑥ **薬局推奨の化粧品や食品**
美容と健康に関連するものとして、栄養機能食品、低カロリー食、介護食、低栄養改善食、サプリメント、減塩・低脂肪調味料など、薬局ならではの商品を取り揃え、栄養相談も行います。
- ⑦ **相談カウンター**
食事、運動、睡眠、排泄、身体衛生(入浴・清潔)、美容や健康、介護、薬のことを、専門的な知識と経験を持つ薬剤師が家族のように相談に応じます。
- ⑧ **談話・閲覧スペース**
お茶を飲んで談笑したり、医療・介護・健康関連情報が閲覧できるスペースです。
- ⑨ **プライベートルーム(個別相談室)**
他人に聞かれたくない内容も、周囲を気にせずゆっくりと薬剤師に相談できます。
- ⑩ **調剤室**
- ⑪ **無菌調剤室**
- ⑫ **無菌調剤室前室**
- ⑬ **薬の受け渡し口**
- ⑭ **夜間待機室**
- ⑮ **医薬品等搬入口**
注文した薬が搬入されたり、患者宅に届ける薬を運び出すための出入り口です。
- ⑯ **スタッフルーム&医薬品情報(DI)室**
十分な広さが確保されたスタッフルーム。スタッフの休憩だけでなく、研修会やカンファレンス、医薬品情報関連書籍の閲覧などに活用します。
- ⑰ **在宅(居宅)療養支援**
地域住民の在宅療養支援に他のサービス事業者と連携して関わります。

設立趣旨

一般社団法人日本コミュニティファーマシー協会(Japanese Association for Community Pharmacy = JACP)は、本来の薬剤師の職能と薬局の機能に与えられた使命の下に社会的役割と責任を果たすために、人々の生活圏を舞台とした健全な地域社会づくりに貢献するコミュニティファーマシーを創造することを目的として2013年11月22日設立。

地域の人々が心身ともに健康で「暮し甲斐」ある地域社会創造の拠点となり、地域住民にとっての拠り所となる「いきつけ薬局」としてのコミュニティファーマシーの創造を行う。

そのアプローチの手法としては、長い歴史の中で街の薬局として厳然として機能してきたドイツの薬局の業態に範をとり、その長所を日本の薬局に取り入れ、具体的なアクションプランとして「日独融合型薬局」という新しい業態提案を軸に具体的支援策を提供していく。

これにあたり、最も重要な生活者および患者の立場と思いを理解した施策を講じることで、薬剤師と薬局の役割と責任を明確に表明し、表現し、活動を実行できる薬剤師が運営するコミュニティファーマシーを増やすことを目指す。

活動内容

1. 地域の人々が心身ともに健康で「暮し甲斐」ある地域社会創造の拠点となり、地域住民にとっての拠り所となる「いきつけ薬局」としてのコミュニティファーマシーの創造と啓発活動
2. コミュニティファーマシーとしての健全経営を目的とした店舗づくり・販売促進・情報発信等に関する支援活動およびコンサルティング
3. 地域の保健、医療、公衆衛生に貢献する薬剤師の行動指針の構築ならびに育成活動
4. コミュニティファーマシーとして地域包括ケアにおける他職種との連携に関する立ち位置の明確化および特徴ある役割と機能の整備、構築のための支援活動
5. 薬学教育発展に寄与するための特別講座など具体的プランの提案
6. コミュニティファーマシーの業務に携わる薬剤師(コミュニティファーマシスト)のマインド喚起とモチベーション醸成を目的とした各種視察ツアーおよび研修
7. 保健、医療、公衆衛生等の薬剤師および薬局が関わる各種調査・分析・データベースの構築など
8. 薬局の専門領域における学術研究
9. 医療・保健・福祉分野だけではなく社会科学的見地からの地域における薬局の在り方に関する理論構築
10. その他

JACPのロゴマークの蛇は、ギリシア神話の医薬の神アスクレピオスに多くの知恵を授けた聖蛇をモチーフにしています。杯は、アスクレピオスの娘であるヒギエイアの杯です。それらを十字と組み合わせ、杯から餌を食べている姿をロゴマークとしました。このマークと団体名(日本コミュニティファーマシー協会)、略称(JACP)は登録商標として登録が完了しています。デザインは異なりますが、このヒギエイアの杯に絡まる聖蛇の姿は、ドイツ全土の薬局(Apotheke)のマークにも用いられています。



Think globally

Act locally

JACPでは、日本の医療制度や薬局だけに目を向けるのではなく、
欧米の薬局や医療制度にも注目し、グローバルな視点で日本の薬局のことを考えています。



ドイツの薬局に学ぶ

ドイツ薬学視察旅行を開催し、現地の薬局、病院薬局、
大学薬学部、オーガニック医薬品会社とその農園、ドイツ薬事博物館等
多様な視察先から多くのことを学んでいます。



- ①街にとけ込む薬局の外観
- ②③ディスプレイで情報発信
- ④商品豊富な店舗
- ⑤相談応需のための個室
- ⑥最新のデジタルウォール
- ⑦ピッキングマシン導入で機械化が進む
- ⑧ロッテンブルクの薬局
- ⑨ドイツ薬局の日
- ⑩実験室
- ⑪24時間365日輪番制で開いている夜間薬局の様子
- ⑫夜間薬局用の小窓

ドイツ薬事博物館の総会が2017年4月に開かれ
開催地の古都シュパイアーに向きました
JACPIはドイツ薬事博物館の賛助会員となっています



FIP国際会議で学ぶ

FIP(国際薬剤師・薬学連合)の国際会議に毎年参加しています。
FIPの国際会議は毎年開催していて、これまでに
タイ、ドイツ、アルゼンチン、韓国、イギリスを訪問しました。
世界の薬剤師が一堂に会しての学会であり、ポスター発表の場もあります。
現地の薬局への視察ツアーも行なっています。



カナダに学ぶ

カナダでは薬剤師がケアに介入することで
患者のアウトカムが上がることを実証しています。
その第一人者が Epidemiology Coordinating and
Research (EPICORE) の所長 Ross Tsuyuki 教授であり、
その他アルバータ州立大学薬学部の教授らより
薬剤師の職能拡大についての教えを請うています。



カナダのEPICOREセンターに在籍していた
岡田浩氏はアウトカム研究の情報を
"ApoBitte!かわら版"で発信しています



- ①アルバータ州立大学薬学部教授 RossTsuyuki氏
- ②同大学薬学部教授・副学長 Christine Hughes氏
- ③同大学薬学部准教授 Terri Schindela氏
- ④同大学薬学部 Prod. Nese Yuksel氏
- ⑤同大学薬学部 Dr. Tatiana Makhinova氏

Think globally

Act locally

薬剤師のモチベーションアップのために、フォーラム、ワークショップ、CP研究会、CP学術講演会、関西CPセミナー、健康サポート薬局経営塾、国内視察ツアーなどを開催しています。

コミュニティファーマシーフォーラム

年に1回、コミュニティファーマシーフォーラムを開催し、時代の先ゆく話を学んでいます。

- 2014年5月25日 第1回コミュニティファーマシーフォーラム(東京四谷)「地域とともに歩む薬局〜ドイツと日本における実践〜」
- 2015年5月24日 第2回コミュニティファーマシーフォーラム(東京四谷)「地域包括ケアに参画するコミュニティファーマシー」
- 2016年7月24日 第3回コミュニティファーマシーフォーラム(東京秋葉原)「発信!発信!コミュニティファーマシー」
- 2017年7月23日 第4回コミュニティファーマシーフォーラム(東京秋葉原)「もっとその先へ!コミュニティファーマシー」
- 2018年7月22日 第5回コミュニティファーマシーフォーラム(東京秋葉原)「明治維新150年、今薬局変革の時〜地域とつながる&AIと夢見る未来へ〜」
- 2019年7月21日 第6回コミュニティファーマシーフォーラム(東京秋葉原)「地域と薬局〜地域フォーミュラーが変える病院・薬局のシームレスな連携」



2015年 ドイツ薬事博物館長・E.フーヴェ氏



2016年 厚生労働省・田宮憲一氏



2017年 日本医療政策機構・小野崎耕平氏



2018年 経済産業省・江崎禎英氏



第3回から第6回までの会場となった秋葉原コンベンションホール

コミュニティファーマシーワークショップ

コミュニティデザイナーの山崎亮氏の指導のもと、地域住民とのつながり方をコミュニティデザインという手法で学びました。

2016年2月11日 第1回コミュニティファーマシーワークショップ「人と人をつなぐコミュニティデザイン」



スモールグループに分かれてテーブルワークを実践



studio-L代表・山崎亮氏



薬局に必要な取り組みを考えていく

国内視察ツアー

日本国内でも主に健康サポート薬局を中心に視察ツアーを行っています。



2017年4月 奈良の大宇陀を歩きました



2018年6月 茨城・フローラ薬局のハーブ園で学ぶ



2017年5月 広島のものぞみ薬局を視察



2017年5月 岡山のマスカット薬局を視察

CP研究会、CP学術講演会、関西CPセミナー

「患者のための薬局ビジョン」で掲げられているかかりつけ薬剤師・薬局機能、健康サポート機能、高度薬学管理機能習得のための知識、技術、態度、コンピテンシーを学んでいます。

- 2015年第1期 CP研究会(年6回開催)
- 2016年第2期 CP研究会(年5回開催)
- 2017年第3期 CP研究会(年5回開催)
- 2018年第4期 CP研究会(年4回開催)

- 2019年第5期 CP研究会(年4回開催)
- 2015年2月第1回CP学術講演会「糖尿病」
- 2015年9月第2回CP学術講演会「皮膚疾患」

- 2016年 関西CPセミナー(年1回開催)
- 2017年 関西CPセミナー(年3回開催)
- 2018年 関西CPセミナー(年3回開催)
- 2019年 関西CPセミナー(年3回開催)



食育SATシステム研修



簡易懸濁法研修



AED体験研修



検体測定体験研修



シニア体験研修



OTC医薬品トリアージ研修

コミュニティファーマシーの日

ドイツの「薬局の日」に学び、5月5日を「コミュニティファーマシーの日」と記念日協会に登録しました。毎年「コミュニティファーマシーの日」を軸にJACP加盟の薬局では地域の人たちを巻きこんだイベントを開催しています。



コミュニティファーマシーの日のポスター



子ども薬剤師体験



ベビーフェスタ



薬草園で薬草摘み



家庭のくすり箱セミナー



健康セミナーで相談応需



ハーブで作った食品の試食

New normal

Act locally

Think globally

2020年初頭より世界中に感染を広めたCovid-19新型コロナに対応すべく、
またそれを機に体制を見直すべく、JACPは大きくニューノーマル(新しい生活様式)へ切り替えを始めました。

ニューノーマルで展開するJACPの活動

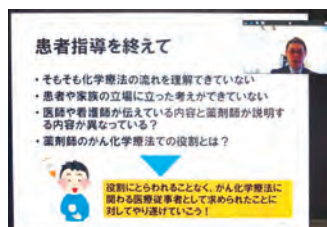
コロナ禍を機に、コミュニティファーマシーフォーラムやPC研究会をWEB配信にて展開しました。

2020年8月30日 第7回コミュニティファーマシーフォーラム (WEB)「# コロナに負けるな!」

2020年第5期 CP研究会 (年8回開催)



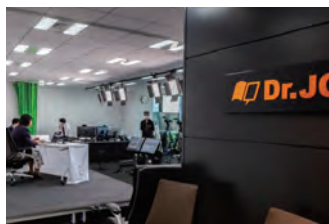
第7回コミュニティファーマシーフォーラムをWEB配信



CP研究会の配信



CP研究会の配信



フォーラムは渋谷のスタジオから配信



フォーラム配信中継

<倫理審査委員会の設置>

薬局・薬剤師の研究分野における、人を対象とする研究(患者アンケート等を含む)に該当する臨床・疫学研究について、その倫理審査が求められるようになり、当協会でも2019年5月にJACP内に倫理審査委員会を設置しました。そして2019年11月に健康サポート薬局の有用性の評価に関するJACP共同研究を行い、その結果を2020年10月第53回日本薬剤師会学術大会にて発表しました。

JACP 会員募集

JACPでは活動主旨にご賛同いただいたみなさまと一緒に、よりよいコミュニティづくりの輪を広げていきます。健康で心豊かな街の拠点となるような素敵な薬局をJACPメンバーズとして、ぜひ一緒に創っていきましょう。

メンバーズの会員は正会員・薬局会員・学生会員・賛助会員・賛助・薬局会員所属従業員正会員の5種類となります。会員は無料にてCP研究会に参加できます。

<会費一覧> 2021年度のCP研究会のサブスクリプション導入により以下のように変更しました

会員種別	入会金	年会費	CP研究会特典
正会員	5,000円	10,000円 初年度に限り年会費無料	—
賛助会員・薬局会員 所属の従業員	0円	8,000円 初年度に限り年会費無料	—
薬局会員	30,000円	1店舗あたり 20,000円 初年度に限り年会費無料	薬局のどなたが 参加しても 2人まで参加可能
学生会員	0円	1,000円	—
賛助会員	0円	1口 50,000円 2口以上	法人のどなたが 参加しても1口につき 1人まで参加可能

<会員特典>

- ① CP研究会の参加費を無料といたします。
- ② 年に4~5回機関紙「アポビッテ!かわら版」を郵送します。
- ③ 年に1回機関誌「アポビッテ!」を郵送します。
- ④ 月に4~5回メールマガジンを配信します。
- ⑤ コミュニティファーマシーフォーラムは会員価格で参加できます。
- ⑥ ドイツ薬学視察旅行に会員価格で参加できます。
- ⑦ 本協会が販売・推奨する製品やサービス等の割引を受けられます。



一般社団法人 日本コミュニティファーマシー協会
〒153-0063 東京都目黒区目黒 1-6-23 TEL: 03-6303-9181 FAX: 03-5759-1724
<http://www.ja-cp.org>